

3 姉妹で伝統守る生野区の巽神社



3 姉妹と総代会長の松下さん（右端）。試作したロールケーキを披露する木村さん（左端）
—大阪市生野区巽南

大阪市生野区の巽神社を応援しようと、近所のケーキ店がショウガ味の「神社（ジンジャー）ロール」を商品化、2日から発売する。巽神社は、4年前に先代宮司が急死し、3姉妹が跡を継いでいる。ケーキ店オーナーの木村裕一さん(57)は「巽神社が地域のシンボルとして注目されるようにもり立てたい」と話している。（中井美樹）

「神社ロール」で

（ジンジャー）

ケーキ店が後押し

巽神社は、明治40年に周辺の5神社が合祀された。毎年夏と秋の祭りでは、だんじりが地域を走りにぎわうことで知られる。

平成16年の年末に、当時の宮司を継いだ。

司、田中正憲さんが63歳で急死。人出の多い正月まで日がな、神職の資格を持っていた、末娘の田中宏美さん(34)が急遽、勤めていた銀行を退職し宮司を継いだ。

「先代が亡くなったとき、宮司さんが銀行の仕事辞めて跡を継いでくれたから、今の神社がある。できるだけお手伝いしたい」。田中宮司は「氏子のみなさんや親戚、たくさんのみ

OLからの突然の転身。右も左も分らないまま、長女の片山明美さん(39)や、次女の本田恵美さん(36)らとともに手探りで神社を運営。地域の氏子も、若い女性宮司たちの頑張りをほうっておけないと、境内の手入れや行事にも積極的に参加し、手伝い始めた。

OLからの突然の転身。右も左も分らないまま、長女の片山明美さん(39)や、次女の本田恵美さん(36)らとともに手探りで神社を運営。地域の氏子も、若い女性宮司たちの頑張りをほうっておけないと、境内の手入れや行事にも積極的に参加し、手伝い始めた。



行事後のかたづけの力仕事や植木の剪定を手伝ってくれたり、水まき用のホースにいつの間にか運びやすいようにコマ付きの台車が付いていたこともあった。氏子総代会長の松下茂さ

「若い世代の人が、お宮に興味をもってくれるきっかけになればうれしい。子供からお年寄りまで誰もが気軽に集えて、地域のコミュニティーの場になるような神社にしていきたい」と話している。